
 学 会 記 事

第27回新潟糖尿病談話会

日 時 平成10年4月4日(土)
午後1時30分より
会 場 新潟大学医学部有壬記念館
2階大会議室

I. 一般演題

1) 糖尿病教育入院の効果—HbA1c の追跡調査を通して—

金子 幸枝・渡辺千恵子 (県立がんセンター)
丸山 秀子 (新潟病院西7病棟)

糖尿病の患者は、年々増加傾向にあり、その患者教育の重要性が叫ばれている。

今回私たちは退院後のデータを追跡調査をし、教育入院の効果について判定しようと研究に取り組んだ。患者を糖尿病教育入院をしていた者(72名)をI群とし、外来に6ヶ月以上通院し、糖尿病教育入院をしたことがない患者を無作為に抽出した者(83名)をII群とし、年齢別などをはじめ、いくつかの観点で比較した。その結果は次のようである

○糖尿病教育入院は、血糖コントロールをするにあたって効果があった。

○早期に教育入院をすることが効果的である

○外来での継続した教育が重要である。

今後教育入院が生活にどのように関わっているか、アンケート等で検討をしていきたい。

2) 寝たきり発生ゼロをめざしての住民健康状態調査結果

飯塚 孝子・藤井あきこ (新潟医療生活協同組)
野股麻佐子 (合 木戸病院保健係)

1. 研究目的

脳卒中中で倒れ寝たきりになった人は、高血圧・糖尿病・脳卒中後遺症治療者だったこれらの疾病を防ぐために、生活習慣が高血圧、糖尿病に関与しているか明らかにする

2. 研究方法

新潟市上木戸の生協組合員20才以上を対象に、96年12月に調査用紙を地区役員を通じて587世帯に配布回収した926人分を分析した。

3. 研究結果

①現在の健康状態は、不調が1割で加齢とともに漸増している。受療率は50代から急増7割代の受療率になるのは、男性60代女性80代と性による年齢差があった。高血圧、糖尿病、脳卒中の占める割合は全体で26%いづれも男性>女性である。40代から増加 ②基本検診受診率は57.6%、女性と退職世代が低い。異常所見4割で、30代から漸増 ③20才からの体重増加とともに増える病気は糖尿病、高血圧、高脂血症。体重増加者は不規則食事と間食習慣者の割合が高かった。+5Kg以上の割合は男性>女性 ④残業率夜勤頻度は男性>女性。残業時間月41時間以上になると10時間以下に比べ高血圧・糖尿病・高脂血症の割合が高い。夜勤者は常日勤と比べ高血圧・糖尿病・心臓病・高脂血症が多い。⑤生活習慣で性差があったものは飲酒と喫煙で男性に多かった。

3) OGTT 結果説明 医師診断前の集団指導の取り組み

小柳 純子 (保健婦)(下越病院)

【目的】

- I. 糖尿病患者に限らず『糖尿病』について理解する
- II. 生活を見直すきっかけにする
- III. 医師の新患指導をより効果的に行う

【方法】

・OGTT 実施者(新患)に希望をとり、説明の予予約する

(当日記入して持参するように「問診表」「食事アンケート用紙」渡す)

↓

・OGTT 結果説明

(集団指導 保健婦は火曜日 看護婦は金曜日 1時間)

(体脂肪測定, OGTT 結果返し, 生活面見直し, 糖尿病についてなど)

↓

・栄養指導(栄養士が1時間)

↓

・診察室(診断・方針など)→ 必要時には更に個別指導を指示(後日予約制)

↓